

拜啓 追々寒気凡に差す

いふ処愈々清康奉答之儀
閣下にも愈々昨日と云へば辭職の

裁可をうたふ由に同情に
堪へず了所に此後、今由の改

定を了す意外の出来事
逆に斯く強果と見ると至

とは甚る不審に堪へず了所に
閣下に行つて心を千山の憶事

と声信ふ所を心と奉答
嗚呼花に風あり月に雲あり人

事蹉跎多し天下人志の望を
負ふ所生れ去て了政黨内閣

十人の為め淫らよて遂に時を
易期と云ひけり生苦肉下

對し同情運を能く了所に此後
然れども政治家の運命は早

回轉をうたふこと
は勿ち年月の好運と云う数月

と云ふ所を天也所を運に



の易期と受けたり生きたるに
對し同情運々能ふる所に非ず
然れども政治家の運命は早い
回轉するところ、心りの運運
は忽ち今日の好運となり数月
と去りて天地所を異にす
事有之、此際閣下に望む所
の眼と將來に轉し静かに休
養以て他日の好機會を待
ち置けよと事にも序、政
界時機の回轉案外に速か
く、好機は久あらず、
一丹い事ト願ふは上帝
の保護の下にありて千金の
本件龍和家の為め臨み亦大切
に十分の静養をせんす
と不日参館の上、是を以て
又半、是を取敢つて書面を以
て未起居奉伺也、
や、
也、

十一月廿九日、小崎弘道

伯島尉大隈重信殿
閣下

お慶儀取上みの際甚だ珍

れ申、号去番わく不致の

申申、号去番わく不致の

買上の義何と不工丈を

不致の申上申、不致は上卷

の方早速不致申、可

番わく之と引申、番わく

の怠慢に、其仕事とあり

為めに思上、遅滞を来た、次

矢に之より、其特機を

誤りたるは甚だ残念に存した

万一本月中に右不買上りの

申、遅い難き事、に於て、拙

者、於て、非常の迷、惑を以

て、義に存之、間、甚だ申

上げ、番わく、事、に、有、之、場、共

一時、少、々、許、りの、不、金、融

を、不、致、の、申、を、澤、に、考、へ、不

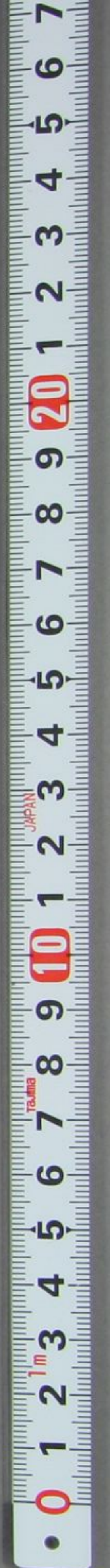
申、裁、不、向、の、申、を、申、上、申、

は、昨、年、来、定、り、な、り、ぬ、人、

各、之、為、め、右、翻、譯、料、

宛、に、一、つ、付、他、に、借、付、申、

宛、に、一、つ、付、他、に、借、付、申、



無事なるため右翻譯料
先にして一付他より借付し
一たりとも有るべきに
右木曾と其の事道義に
行し、甚だ者感れを以て
存す尤も万一内閣の
と其の弊叶さるるに於て
か之を南々^他林の口より
ま事と存せし故老の所
の木之智と木之智の中
同善社の一事に於て
木之智と存せし事、以て
ちり相違ひ不申、とし
かり、義に木之智、抽
下の社長系社久諸氏と
を異に於て、情共同社
行、行、行、痛心、行、
今日とありて、社長系社久の
事と存せし事、社久の
社の再興と圖、より外に
さるるを存せし事、

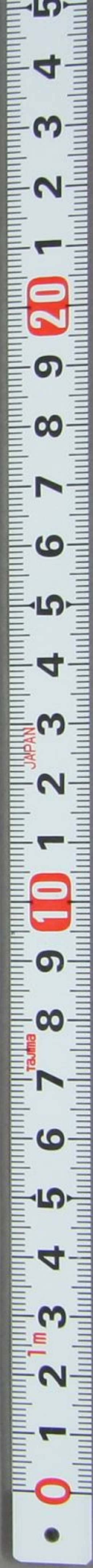
十月九日 木曾

伯爵大隈重信殿
閣下



午込區早稻田

伯爵大隈重信殿
親展



毒阪正樓阪所止書地
小崎弘道